(3) 会津高田町のかきづくり

① 会津身不知柿づくりの始まり

今からおよそ400年前，室町時代の終わりごろ，福島県安達郡岩代町のお坊さんが，中国からかきのなえ木を持ち帰り植えました。その後，かきは岩代町全体に広まりました。そこに住んでいた人が，会津に移り住むことになり，このかきをいっしょに持ちこんだのが始まりだと言われています。

江戸時代の中ごろになると，会津藩でもかきをたくさん作るようによびかけました。

▲会津身不知柿

初めは，会津若松市の門田地区が中心となっていましたが，それが会津のいたるところに広がり，会津高田町でも作られるようになりました。

② 会津身不知柿の今の様子

現在，会津高田町の農家では，米づくりや野菜づくりと合わせてかきづくりを行っています。特に，永井野上戸原地区では，ほとんどの農家がかきを作っています。

また，かきづくりは，ほかのくだものにくらべ手間がかからず，病気もつきにくいということで，数多くの農家で作られています。